

IFERROR関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

IFERROR関数の基本

IFERROR関数の基本

IFERROR関数は、数式が「エラー」になった場合に、エラーの代わりに表示させたい内容（空白など）を指定できる、非常に便利な関数です。

=IFERROR(値, エラーの場合の値)

引数	内容
①値	エラーかどうかをチェックしたい数式やセル。（例: <code>VLOOKUP(...)</code> 、 <code>A1/B1</code> ）
② エラーの場合の値	もし「値」がエラーになった場合に表示させたいもの。（例: <code>""</code> (空白)、 <code>"該当なし"</code> 、 <code>0</code> ）



エラー表示による見た目の悪さや、エラーが原因で他のセルまで計算できなくなる「集計エラー」を防げます。

【実践①】 VLOOKUPの「#N/A」エラーを消す

【実践①】 VLOOKUPの「#N/A」エラーを消す

IFERROR関数が最もよく使われるのが、VLOOKUP関数との組み合わせです。

よくある悩み： VLOOKUPで検索値（商品コードなど）が見つからないと「#N/A」エラーが表示され、表の見栄えが悪くなってしまいます。

解決策： IFERROR関数で、VLOOKUPの数式全体を「サンドイッチ」のように囲みます。

数式例： `=IFERROR(VLOOKUP(A2, $D$2:$E$5, 2, FALSE), "")`

解説：

1. VLOOKUP(...) が実行されます。
2. もし結果が「#N/A」エラーになったら、代わりに ""（空白）を表示します。
3. エラーでなければ、VLOOKUPの結果（例: "商品B"）をそのまま表示します。

【実践②】 実務で使える組み合わせテクニック

【実践②】 実務で使える組み合わせテクニック

VLOOKUP以外にも、エラーが発生しやすい関数と組み合わせることで、レポートの品質が格段に向上します。

組み合わせ	内容と数式例
割り算 (/)	【目的】達成率の計算などで「#DIV/0!」を防ぐ 例： B2セルの目標値が0の場合にエラーになるのを防ぐ =IFERROR(A2/B2, 0)（目標未達の場合は達成率0%と表示）
AVERAGEIF	【目的】平均値の計算で「#DIV/0!」を防ぐ 例： 対象データが1件もない場合にエラーになるのを防ぐ =IFERROR(AVERAGEIF(A:A, "東京", B:B), "-")
INDIRECT	【目的】参照先シートがない等の「#REF!」を防ぐ 例： INDIRECT関数で指定したシート名が存在しない場合に備える =IFERROR(INDIRECT("'" & A1 & "'!B1"), "該当シートなし")

IFERRORが対応できる主なエラー一覧

IFERRORが対応できる主なエラー一覧

IFERRORは、VLOOKUPの「#N/A」だけでなく、Excelで発生するほとんどのエラーに対応できます。

エラー名	主な原因	IFERRORでの対処例
#N/A	VLOOKUPやMATCHで、検索値が見つからない。	"" や "マスタ未登録" と表示
#DIV/0!	割り算で、分母（割る数）が0または空白で計算できない。	0 や "-" (ハイフン) と表示
#VALUE!	数値が入るべき場所に文字列が入っており、計算できない。	0 や "計算不可" と表示
#REF!	参照していたセルを削除してしまった。	"参照先不明" と表示
#NAME?	関数名や範囲名を間違えている。（例: <u>VLOKUP</u> ）	"数式エラー" と表示

 IFERROR関数は「なぜエラーになったか？」を区別せず、「とにかくエラーだったら」指定した代替の値を表示します。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。